

「基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成」に関する事業

(1-1) 点検・評価表

2-1 地域と共にある学校づくり

- 2-1-1 特色ある学校づくりの充実と教職員の研修の場の提供を
推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
- 2-1-2 ゲストティーチャーを活用し、地域の歴史・文化・産業等を
テーマにした学習を推進します・・・・・・・・・・ 40
- 2-1-3 積極的な学校公開等による地域に開かれた学校づくりを
推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- 2-1-4 見守り隊など地域での子供の安全を守る取組を推進します・・・・・・ 42
- 2-1-5 コミュニティ・スクールの活動の充実を図ります・・・・・・ 43

2-2 青少年の健全育成

- 2-2-1 青少年健全育成の課題について関係機関相互の協力による調査
研究に努めます・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
- 2-2-2 青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を
推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- 2-2-3 青少年に次代を担う者としても自覚・自立を促します・・・・・・ 46
- 2-2-4 さまざまな体験活動を通し、青少年の豊かな心を育成します・・・・ 47

2-3 学び合う、支え合う地域社会づくり

- 2-3-1 家庭教育事業の充実に向けた連携及び支援体制を整えます・・・・ 48
- 2-3-2 家庭の教育力を高めるため、保護者に向けた啓発に努めます・・・・ 49
- 2-3-3 放課後子ども教室など、地域での安全で安心な子どもの
居場所づくりの取組を推進します・・・・・・・・・・ 50
- 2-3-4 「“ののいちっ子を育てる” 市民会議」の活動を支援します・・・・ 51
- 2-3-5 青少年の健全育成に取り組む地域社会活動を支援します・・・・ 52

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-1 特色ある学校づくりの充実と教職員の研修の場の提供を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・特色ある学校づくり支援事業では、各学校が学校経営ビジョンの実現や児童生徒や地域の実態を踏まえ、創意工夫した教育活動を展開するための補助金を支給した。
 ・市小中学校教育研究会（市教研）に対する補助金を支給し、県教育委員会指導主事の派遣手続きを行うなど、市内の小中学校教職員が自主的に学び合う場を提供した。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・各学校が、特色ある学校づくりに向けた教育課程や取組を実施し、自主的・自律的な学校運営を推進した。 ・市小中学校教育研究会において、学習指導や生徒指導の課題やスキルを共有し、9年間を見通した小中連携の指導体制づくりが促進された。 ・「人権教育研究指定校事業」において、市内小学校1校が国・県の研究指定校としての役割を果たした。	・各学校の創造的な学校づくりを支援するための予算確保に努める。 ・各学校の研究成果について、市の教育基本方針等と関連させながら市内小中学校へ普及啓発を確実に図ること。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

・各学校の特色ある学校づくりを継続して支援する。
 ・特色ある学校づくりの活動内容や成果等について、教頭会議等において交流する場を設け、相互理解を深めるとともに、良い取組について学び合う。
 ・市小中学校教育研究会の活動に対して、県・市の指導主事による指導・助言の機会を適切に設けられるよう計画的に調整を図る。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		各学校の特色ある学校づくりや質の高い研修の機会への支援を継続するため。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成

基本的施策 1 地域と共にある学校づくり

具体的施策 2-1-2 ゲストティーチャーを活用し、地域の歴史・文化・産業等をテーマにした学習を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・小学校社会科資料集「わたしたちの野々市」を改訂した。
- ・「学校の応援団」として、地域のボランティアがゲストティーチャーを務めた。
- ・中学校2年生の「わく・ワーク体験」（職場体験）を再開した。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・小学校社会科資料集「わたしたちの野々市」の内容を見直し、授業での活用を想定し一部の資料を刷新した。 ・各教科等において、地域の方にゲストティーチャーをお願いすることで、質の高い学びにつながった。 ・「わく・ワーク体験」を再開し、地域での職場体験を通して、キャリア教育において学びを深めた。	・「わたしたちの野々市」の活用。 ・コミュニティ・スクールの更なる活用推進。 ・地域の魅力を発掘し、授業の質を高めるための地域人材の発掘・確保。 ・「わく・ワーク体験」の協力事業所等の新規開拓。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

- ・小学校社会科資料「わたしたちの野々市」改訂版の活用により、児童が身近な地域・文化・産業等について学習することを促進する。
- ・コミュニティ・スクール等で発掘した地域人材を活用し、質の高い学習活動を行う。
- ・「わく・ワーク体験」を継続して実施し、勤労を通して、未来の地域の担い手となる意識を醸成する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		継続して、地域の魅力を生かした学習活動を実施し、「地域に開かれた学校」を目指すため。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-3 積極的な学校公開等による地域に開かれた学校づくりを推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・学校公開の実施 ・学校評価の実施 ・地域学校協働推進員による広報活動

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・学校公開の実施により、学校での子どもたちの様子や学校の取組を知ってもらう機会として機能している。また、学校は道徳の授業を計画的に行うなど、保護者、地域との連携を意識した内容を実施している。 ・学校運営協議会の実施により、学校の困り感を地域が支え、学校教育の環境づくりの向上につなげることができている。	・学校が抱えている問題点を多くの保護者、地域と共有し、解決に向けて、保護者、地域が協力できる体制づくりに課題が残る。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
2-1-3	各学校の公開回数	回/年	3	3	3	3 （維持）

（3）今後の展望

・学校評価を基にして、子どもたちにとって学校が居心地のよい場となるように指導改善を引き続き行っていく。 - また、その計画や結果を保護者や地域と共有し、改善に向けた取組を協働する。 ・学校の取組を学校ホームページやICTツールを活用して積極的に発信する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		学校運営協議会が定着してきたことにより、質の高い授業や環境づくりが行われているため。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-4 見守り隊など、地域での子どもの安全を守る取組を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・各小学校では児童が見守り隊に対して、感謝の気持ちを伝える取組（手紙を書いて渡す等）を実施した。
- ・見守り隊へのアンケートを実施し、構成員や今後の課題などについてご意見をいただいた。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・見守り隊の存在により、子どもの安全意識の向上につながっている。 ・見守り隊の方からの通学路の危険個所に関する情報や児童生徒の気になる通学の様子が報告されることもある。	・見守り隊員の減少と高齢化。 ・日常的に感謝の気持ちを言葉や行動で表すことができる子どもの育成。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

- ・見守り隊が必要としている物、情報などの提供と、活動に関する研修等の充実。
- ・見守り隊と子どもの交流をきっかけとして、子どもの安全を地域全体で確保できることを目標とした取組を進める。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		見守り隊の高齢化や減少への対策は検討の必要はあるが、見守り隊と子ども、学校の関係性は大変良好であり、安全も確保されているため。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課・生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-5 コミュニティ・スクールの活動の充実を図ります

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・市立小中学校に学校運営協議会を設置し、年4回学校運営協議会を開催
- ・生涯学習課内に地域学校協働本部を設置し、各校に地域学校協働活動推進員を1人配置
- ・地域学校協働活動ボランティアの募集及び登録（個人70件 企業36件 団体36件）
- ・地域と学校の連携・協働体制構築事業費補助金による支援
- ・「コミュニティ・スクールボランティア感謝のつどい」を開催（開催日：令和6年2月17日 参加者数：105人）
- ・「野々市市学校・家庭・地域応援企業」登録制度の創設（登録企業7社）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・活動2年目を迎え、各学校や地域においてそれぞれ制度理解度が深まったことや情報共有が図られたことにより効果的な連携・協働を実施することができた。 ・「野々市市学校・家庭・地域応援企業」登録制度を創設したことにより、現在7企業において家庭教育を応援し、学校・地域社会に貢献する活動に取り組んでいただくことができた。	・学校と地域で更なる目標や課題を共有し、学校のニーズに合ったボランティアの新規人材確保を行うことが必要。 ・継続的な活動を充実させ、幅広い地域住民や団体等の参画を得るための工夫が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
2-1-5	地域の人々と連携した授業回数	回/年	56	61	66	70
2-1-5	地域協力者の登録数（個人・団体）	人・団体/年	—	118	142	140

（3）今後の展望

- ・学校のニーズが高いボランティア項目の登録者を増やす。
- ・「野々市市学校・家庭・地域応援企業」の登録企業数を増やし、一般企業に対しても、地域住民として、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちをはぐくむ「地域と共にある学校づくり」に参加いただけるように努める。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		子どもたちの健全育成には、学校と地域の連携・協働が必要不可欠であることから、新規開拓も含め多くの様々な地域住民並び企業等に協力をお願いし、コミュニティ・スクールの充実を図る。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成

基本的施策 2 青少年の健全育成

具体的施策 2-2-1 青少年健全育成の課題について関係機関相互の協力により調査・研究に努めます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・青少年問題協議会の開催（開催日：令和5年11月15日）
市少年育成センターなどの青少年に関わる各組織が青少年を取り巻く近年の傾向について、それぞれ説明を行い、情報共有し、意見交換を行った。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年に関わる関係者が、現代の青少年が直面する問題や青少年を取り巻く環境について情報を共有し、かつ意見交換を行うことで理解を深めることができた。	・昨今の急激に変化する社会において、青少年を取り巻く環境も急速に変わっていくことから、新たな課題に対して積極的に意見交換、対応策の検討を行っていくことが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

・青少年問題協議会を通して、関係機関との連携を深め、現代社会における青少年を取り巻く環境に関して意見交換を行い、課題解決のための方向性を探っていく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		青少年に関わる関係機関が一同に会して情報共有を行う場であることから継続実施する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-2 青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・街頭巡視活動の実施（年間延べ300回、延べ708名が市内商業店や公共施設等を巡視）
 ・インターネット巡視活動の実施（年間226回、T i k T o kやInstagram等のSNSやインターネット掲示板等の投稿を確認）
 ・市内児童・生徒・保護者からの初動的な相談を受け付ける「いじめ・トラブル相談室」を開設した。（相談受付件数：15件 相談受付方法：電話、メール、W e b フォーム、来所）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・市内商業店や公共施設等の街頭巡視を実施することで、子どもたちが安心・安全に過ごせる地域環境を維持した。 ・SNS等のインターネット巡視を行い、誹謗中傷の投稿等の問題を発見した場合は速やかに関係機関と情報共有し、問題解決を図ることで非行や被害を防止した。	・今後も市内の新たな商業店の出店や既存店舗の閉店などの情報収集に努め、地域の商業環境の変化が市内児童生徒にどのような影響を及ぼすかを調査し対応していく必要がある。 ・SNSなど、新たなサービスの使用状況や危険性を確認していく必要がある。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
2-2-2	街頭巡視活動の参加率	%	88	71	83	90
2-2-2	インターネット巡視活動	回/年	181	244	226	220

（3）今後の展望

・今後も継続して市内の商業環境を把握し、健全な商圈を構築していく。
 ・SNSなどインターネット上の新たなサービス等の使用状況、危険性を把握し関係機関と共有できる体制を維持していく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		非行・被害防止のため今後も市内商業環境の把握やインターネット上のサービスの把握が必要なため。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-3 青少年に次代を担う者としての自覚・自立を促します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・成人式
 日時：令和6年1月7日（日）午後2時開催
 内容：アトラクション・式典（対象者数：813人 参加者数：366人）
- ・立志式
 日時：令和5年11月21日（火）午後2時開催
 内容：式典・記念講演（講師：柴野 大造 氏 株式会社マルガー代表取締役 世界ジェラート大使 参加者数：577人）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年の新たな門出に際し、地域社会からの温かい祝福を受ける中で、大人として社会に参画していくための心構えについて考える機会を提供できた。	・成人式については、文化会館の改修工事により、会場を変更して実施することに加え、過度な混雑を防止する効率的な開催方法について検討していく必要がある。 ・立志式については、現代の思春期の青少年のニーズに合わせた講演会を実施する必要がある。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

- ・次代を担う青少年が意欲を高め、将来自立していくうえで役に立つような講演会の開催等を検討していく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		成人式、立志式には毎年多くの市民が出席しており、大人としての自覚自立を促す良い機会となっている。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-4 さまざまな体験活動を通し、青少年の豊かな心を育成します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・公民館事業として子どもたちが自然と触れるイベントを実施
 ののいち自然教室 第1回：令和5年7月28日（金） 白山市蛇谷自然観察園、中宮展示館など
 第2回：（震災により中止）令和6年1月27日（土） プナオ山観察舎、白山ろく少年自然の家
- ・ボランティア探検隊「飛鳥」の活動支援
 活動内容：郷公民館花いっぱい運動補助、野々市公民館七タイプ子ども縁日運営補助、
 ののいちマナビフェスタ子ども縁日運営など
- ・ボランティア団体「glory」の支援

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・自然体験教室やボランティア活動によって、日常生活では体験できないような活動の機会を提供したことで、子どもたちの社会性や協調性の向上に寄与した。	・自然体験教室が子どもたちにとってより良い体験になるように内容の充実を図ることが必要。 ・ボランティアの活動の知名度を高め、活動の充実を図ることが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
2-2-4	青少年ボランティア登録者数	人	25	31	31	40

（3）今後の展望

- ・自然体験教室やボランティア活動の取組の趣旨を周知し、興味を持って参加してもらえるよう企画実施する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		自然体験教室やボランティア活動などでは、普段の学校生活や家庭ではできない体験ができ、それらの活動は豊かな人間性の涵養に寄与するため、今後も継続して実施する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課・子育て支援課・健康推進課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-1 家庭教育事業の充実にに向けた連携及び支援体制を整えます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・家庭教育推進協議会の開催（年2回 開催日：令和5年7月26日、令和6年3月21日）
- ・家庭教育サポーターの活動
 - 各園の「なかよしの日」に保護者との相談活動を実施（市内11園 計51回実施）
 - 子育て中の保護者の気軽な相談相手として来館者への声かけなどをする支援活動の実施（開催日：毎週火曜日 場所：カレード）
 - 子育て中の保護者と子どもが一緒に楽しめるイベント「なかよし子育て大集合！」の実施（開催日：令和6年3月23日 参加者数：166人）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・家庭教育推進協議会では、「ののいち元気家族三か条」チラシを配布し、家庭教育の重要性を啓発した結果、広く市民に認知された。 ・家庭教育サポーターの活動をカレードでも実施することで、より気軽に相談できるようになった。	・家庭教育サポーターの人員確保が必要。 ・家庭教育の重要性をさらに周知するため、コミュニティ・スクールの事業とも連携し、地域住民や企業との協働が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
2-3-1	家庭教育サポーターの人数	人	21	28	23	30

（3）今後の展望

- ・効果的な家庭教育の事業を推進するため、家庭教育の関係者を集めた協議会を定期的に開催し、課題解決を図っていく。
- ・家庭教育サポーターの体験談や活動内容を積極的に発信することで、サポーターの魅力を伝え、人員の確保に努める。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		人格形成の基礎である家庭教育の充実ははかることは、青少年の健全育成へつながるため、各家庭の自主性を尊重しつつ、継続して取り組む必要がある。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課・教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-2 家庭の教育力を高めるため、保護者に向けた啓発に努めます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・就学時健診子育て講座（小学校5校 計5講座 参加者数：548人）
- ・思春期子育て講座（中学校2校 計2講座 参加者数：528人）
- ・家庭教育講座を市PTA連合会に委託（各単位PTAにて開催 計8講座 参加者数：552人）
- ・幼児家庭教育講座を各保育園で家庭教育に関連するテーマで年1回開催（8園実施 参加者数：166人）
- ・「ののいち家族ふれあいの日 NOネット・NOゲーム・NOテレビ」の推進

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・市内保育園や市内小中学校で講座を実施することで、子どもの発達段階に応じた学習機会を提供することができた。	・各種講座をインターネットを活用して行うなど、講座の開催方法の拡充を図ることで、より多くの学習機会を提供することが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
2-3-2	ノーネット・ノーゲーム・ノーテレビデーの認知率	%	76	96	98	80
2-3-2	公民館等と連携した講座の開催数	回/年	—	0	4	10

（3）今後の展望

- ・家庭の教育力を高めるには、保護者の子育てに対する意識の向上が必要であるため、各種講座を開催し、保護者へ学習機会の提供を継続して行う。
- ・ニーズの把握にも努め、需要に即した講座を実施する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		家庭の教育力を高めるためには、保護者への学習機会の提供を継続して行うことが必要である。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課・教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
- 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
- 具体的施策 2-3-3 放課後子ども教室など、地域での安全で安心な子どもの居場所づくりの取組を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・放課後子ども教室を市内各小学校及び市役所で実施（計6教室 参加者数：112人）
- ・土曜日等の教育活動の実施（計4日 参加者：延べ93人）
- ・コミュニティ・スクールボランティア登録制度の活用した放課後子ども教室スタッフ人材の確保

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・放課後子ども教室および土曜日等の教育活動において、子どもたちの安心安全な居場所を設け、さまざまな体験活動を行うことで、豊かな人間性の形成に寄与した。 ・コミュニティ・スクールボランティア登録制度を活用し、放課後子ども教室の運営スタッフを増員することができた。	・運営スタッフの人数などに応じて定員を決定するが、定員を超えて申込があった場合は抽選となってしまうことから、申込者数に応じた運営スタッフの確保が必要。 ・放課後子ども教室の講師選定の際にコミュニティ・スクールボランティアの方にも協力いただけるような体制の構築が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
2-3-3	土曜日等の教育活動の参加人数	人/年	174(R1)	85	93	200

（3）今後の展望

- ・継続して子どもたちに多種多様な体験活動を提供するため、地域と関わり合いを持ちながら地域ボランティアの確保に努めたい。
- ・事業内容を精査し、新しいものを取り入れながら、さまざまな機関との連携事業についても推進したい。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		子どもたちの安全・安心な居場所を設け、豊かな人間性をはぐくむためには、地域との連携をさらに充実させる必要がある。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-4 「”ののいちっ子を育てる”市民会議」の活動を支援します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』の実施（全5期）
- ・子どもと大人のまちぐるみ美化清掃の実施（開催日：令和5年7月2日 参加者：54町内会及び野々市明倫高校4,829人）
- ・青少年育成研修会の開催 「デジタル・シティズンシップ教育について」について（開催日：令和5年7月15日 参加者数：98人）
- ・ネットモラル標語ポスターの掲示 「その言葉 送っていいか 考えよう」等8種類（町内会掲示板113箇所 公共施設63施設 小中学校7校 合計984枚）
- ・地域学校協働本部としてボランティアの登録（個人70件 企業36件 団体36件）及び紹介（24件）の実施

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年育成研修会において、保護者や青少年健全育成関係者が、デジタル・シティズンシップ教育について理解を深めることができた。 ・地域学校協働本部の運営を担い、コミュニティ・スクール事業を効果的に推進することができた。	・子どもたちを取り巻く社会環境が急速に変化していることから、現メディア対策事業を定期的に見直し、時代の変化に対応した青少年健全育成活動を推進することが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）
2-3-4	美化清掃の参加者数	人/年	9,533（R1）	8,374	4,829	11,000

（3）今後の展望

- ・『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』や子どもと大人のまちぐるみ美化清掃は、地域住民活動として定着していることから、今後も”ののいちっ子を育てる”市民会議の活動を引き続き支援する。
- ・メディア機器の進化によって子どもたちを取り巻く社会環境の変化が著しいことから、引き続き保護者や関係機関の方々に向けた最新のメディアに関する学習会を開催する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』や子どもと大人のまちぐるみ美化清掃は、地域住民活動として定着し、青少年健全育成に寄与していることから継続する。

令和6年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和5年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-5 青少年の健全育成に取り組む地域社会活動を支援します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・各団体の活動の支援
 子ども会育成連絡協議会 ラジオ体操、輪投げ大会など
 P T A 連合会 巡視活動、研修会など
 スカウト育成会 募金活動、災害ボランティア派遣など

■施策のまとめ

（１）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年の健全育成に取り組む各種社会教育団体を支援することで、子どもたちが地域の人たちとのつながりを感じることができた。 ・各団体の活動を通して、地域で子どもたちを育てるといふ機運を醸成した。	・昨今の社会情勢や教育環境の変化に伴い、各団体においても新たな取組を検討していくことが必要。

（２）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	目標値（R13）

（３）今後の展望

・子どもたちが地域の人々との関わりの中で健やかに成長していくための取組が継続されるよう、引き続き各団体を支援する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		地域の人々との関わりが子どもたちの健やかな成長に寄与すると考えられることから、引き続き支援を行う。

（２－２）学識経験者からの意見

・地域の人材や教育資源を生かした学び、本物に触れる体験を通して感性豊かな学びを設けたり、地域のボランティアによる学習サポートを行ったりすることで、学習活動を充実させてきました。コロナ禍で中止になった職場体験も再開し、中学生にキャリア教育はもちろんのこと、地域や事業所に対する理解を深め、地元への愛着も湧いたかと思います。また、地域が一体となって生徒を育てていこうとする良いタイミングでもあったと思います。さまざまな人とのつながりを持つことでより良い豊かな心を育むことにもつながると考えますので、今後さらに地域の歴史・文化・産業等をテーマにしたゲストティーチャーの学習の推進に努めていただきたい。

・地域住民やPTAの方々による見守り隊の活動を通して、子どもたちが感謝の気持ちを持ち、それを伝えることは子どもたちの心の成長につながり、また子どもたちと地域の人たちとの会話から地域に活性化がもたらされます。見守り隊の減少や高齢化という課題はありますが、その改善への取組に期待します。

・コミュニティ・スクールについては、全小中学校での学校運営協議会の設置と年間４回の開催、地域学校共同本部の設置や各校に地域学校協働推進員の設置を進めるなど着実に進展しております。また、各学校や地域において制度に対する理解も深まり、地域の人々と連携した授業回数や地域協力者の登録数も順調に増加しており、高く評価できると考えます。今後も、各学校のニーズにあった地域の新規ボランティアの確保や「野々市市学校・家庭・地域応援企業」を増やす等により、幅広く、多くの地域住民や団体等が子どもたちの成長を支える活動に参画していただけるような基盤整備をお願いしたい。

・青少年の非行やいじめ、インターネット上のトラブル等を防止すると共に青少年の健全育成を図るため、少年育成センターにおいて街頭巡視やインターネット巡視活動、各種活動が活発に行われています。令和５年度に行われた新規事業「いじめトラブル相談室」は、世の中にたくさんの相談機関がありながらも、児童生徒保護者が育成センターへ相談をしてくれたということは、長年にわたって積み上げてきた信頼関係のたまものだと感じます。

・就学時健診子育て講座などの保護者に向けた啓発については、家庭環境の多様化に伴い子育てについての不安や孤立を感じている家庭が多く、保護者への学習機会の提供にもなることから今後も継続して実施していただくとともに、家庭の教育力の向上に更なる学習の提供をお願いしたい。

・放課後子ども教室や土曜日等の教育活動は、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子どもたちと大人の交流のうえでも大事な事業であると考えられます。参加人数が着実に増加しており、望ましいことです。子どもの安全・安心の観点、地域の教育力向上の観点、さらには学習機会等の観点からも、更なる充実を図ることが望まれます。今後は、地域ボランティアの確保や様々な地域の機関との連携を推進する等、地域との連携をより一層充実していただきたい。

(2-3) 今後の方針

・継続して、各学校の特色ある学校づくりを支援するとともに、適切で質の高い自主研修の機会を提供していきます。

・継続して街頭巡視やインターネット巡視活動を実施し、初動対応を適切に行うなど、青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を行います。

・コミュニティ・スクールに対する活動の充実を図り、また地域の人々の協力を得て、子どもたちの安心安全な活動拠点において、学習活動やスポーツ・文化芸術活動等の取組を実施していきます。

・自然体験教室の実施やボランティア団体の活動を支援することにより、社会性や協調性を持った心豊かな子どもたちの育成を図ります。

・保護者に対して家庭教育の学習機会を継続的に提供し、保護者同士の交流を促進することで、地域社会としての教育力を高めていきます。